

わたしの主張 校内意見発表会 (その1)

7月10日(木)に「わたしの主張校内意見発表会」を行いました。当日は6人の学級代表が発表しました。ここまでの過程には、全校生徒が意見文を書く。→クラスの小グループ内での発表→クラス内発表を経て、代表生徒が選出されています。

6人とも素晴らしい発表でした。それぞれの主張のポイントと思われる部分を紹介し、校長なりの感想を添えてみたいと思います。発表順に今回は3名紹介します。

『ダメ』なら『ダメ』なりに」 1年

私の通っているスイミングクラブには、選手コースと選手育成コースがあります。選手コースに入るには、水泳資格級6級が必要でした。だから小学校最後の大会で目標タイムを切り、選手コースに入りたかったのです。本番直前、私は急に不安になり怖くてたまらなくなりました。体は温まっていますが、手は氷のように冷たく心臓が激しく動いていました。そして、その緊張はほぐれることのないままレースがスタートしました。プールの水はとても冷たく、緊張でうまく動かない私に追い打ちをかけるようでした。目標タイムが切れずその場で号泣してしまいました。この時からタイムが怖くなってしまったのです。



2か月後、練習でタイムを計る機会があり、目標タイムを切れば選手コースに入れます。私はとてつもない緊張感におそわれました。「今回もタイムを切れなかったらどうしよう」と言った私に、コーチは「ダメならダメなりに頑張ればいい。別に今回で終わりじゃないし、何回でも挑戦する機会はある。」と言ってくれました。その言葉が「ダメでもよい」と言っているような気がして、私の緊張感はほぐれていました。私の中で忘れていた何かを思い出させてくれた気がしたのです。水が私を運んでくれているかのように速く泳げ、私は目標タイムを切っていました。これ以上ないほどうれしくてコーチも他のメンバーも拍手で喜んでくれました。選手コースで、練習はきつくなったけど、あの時気付いたことを忘れずに「ダメならダメなりに」を続けようと思います。部活動で負けたり、悲しいことがあってもあきらめずに挑戦を続けてほしいと思います。

最初の場面で、目標タイムをクリアするときの緊張感、その気持ちが体に及ぼす影響がとてもよく伝わってきます。タイムが怖くなった時に、コーチの一言がいかに関心の今後にとって大きなものであったかを、とても丁寧に表現してくれました。やはり、心と体は通じていて、いかにメンタルコントロールが大切かを実体験から訴えています。その経験から、あきらめず挑戦するときの、心の持ちようが、表題の「ダメならダメなりに」に込められています。

「Never give up」 1年

私は6年生で初めてバレーボールというスポーツに触れました。きっかけは友達でした。運動は苦手だけど、バレーは別でした。見学に行った時に楽しそう、私もやりたいと思いました。そのチームは人数が少なく、入部してすぐにスタメンに入れられました。私はみんなに追いつけるようにたくさん練習しました。だけど、サーブは入らない、スパイクはネットにひっかかる等、明らかにチームの足を引っ張っていました。私はいつの間にか楽しいと思っていた練習をやめたい、楽しくないと思うようになっていました。チームメイトは気を遣うように「私も最初はできなかった」と言いました。だけど私にはその気遣いがとても重く感じて、一人で泣いたこともありました。

ある日、サーブ練習をしていた時、初めて自分の打ったボールがネットを超えた光景を目にしました。周りの人たちは私のところに駆け寄って、自分のことのように喜んでくれました。とても嬉しかったです。それからというもの、私は「できる」が増えていきました。

私は中学でもバレーボールを続けることにしました。大会でベンチ入りもできました。ベンチ入りの発表を聞いた時、嬉しいというよりは「他の1年生に負けたくない」と思いました。今考えてみると数えられないほどコーチに怒られました。でもコーチは手下だから怒っているのではなく、「あなたならできる」と期待してくれているのではないのでしょうか。選手に「つらい」というのはつきものであって、それを乗り越えたとき、自分の努力は無駄ではなかったと気付くと私は考えています。



最初から物事をうまくできる人はそういません。繰り返し練習し身に付けていくものだと思います。バレーボールでの練習を通して、努力を続けていくこと、その努力が必ず報われるときが来ること、一つクリアすると自信につながり、「できる」が増えることがとてもよく伝わってきました。その過程では必ず「つらい」ことがつきもので、そこをどうやって乗り越えるかについて、一つの提案をしてくれたように思います。

「ジェンダー『平等』とは」 2年

「ジェンダー平等」という言葉を知っていますか？男性と女性の性別間の差別をなくす取組です。昔は、「男尊女卑」の時代でした。このような性別間の格差をなくそうとしているのは「ジェンダー平等」ですが、私はこの「ジェンダー平等」の取組をあまりよいとは思いません。ジェンダー「公平」がよいと思います。

「平等」とは、複数の人に対して、同じ分だけ与えることです。この場合、AさんとBさんの所持金の差は変わりません。「公平」とは、結果を同じにするということです。Aさんにだけ100円を与え、これでAさんとBさんの所持金の差がなくなりました。

かつて「男尊女卑」の社会で、ジェンダー平等にすると、今でも男尊女卑の社会となる。だから、私はジェンダー「公平」にするのがよいと思います。

次にジェンダー「平等」の問題点、矛盾点についてです。例えば、痴漢の被害に遭わないための都会の女性専用車両です。男性専用車両を見たことがありません。男女「平等」ならば、男性専用車両も配置しなければなりません。また、体力テストのシャトルランでは、同じ回数でも女子の点数の方が、男子の点数よりも少し高くなっています。男女差はありますが、得点も同じにするのがよいと思います。

ジェンダー「平等」を、達成することは難しいと考えています。なぜなら男女ではどうしても同じにはできない部分があるからです。男女では体格の差や男女では思考にも違いがあるとされています。ジェンダーに配慮しすぎて、過去にスポーツ大会で、自分の性自認を「女性」だと主張する男性を女性と判断し、出場を認め、優勝してしまうこともありました。私は、「こんなところまでジェンダーを配慮しなければならないのか」と思いました。

全ての人が納得するジェンダー「平等」を実現することは難しいことです。まず、「平等」ではなく「公平」という考え方で、男女間の差をとらえ、何に取り組むべきかを考える必要があると思います。そして、自分自身にできる範囲で、ジェンダー「公平」に向けて取り組んでいきたいと思っています。

「平等」と「公平」について具体例を挙げて分かりやすく説明してくれました。ジェンダーの問題をどうとらえるかは、とても重要で複雑な問題です。これからの社会は、性別に関係なく個人の能力や選択が認められることを目指すことが大切ではないかと考えます。皆さんがそれぞれの場面や状況で、固定観念にとらわれず、お互いを尊重していくことかと思っています。

